

かたりべ132

豊島区立郷土資料館・ミュージアム開設準備だより



①「千登世橋からの王電」
（『高田町写真帖』より）



②「鬼子母神前から学習院下に向かう都電 8900 形」
（2019 年 4 月 千登世小橋より撮影）

千登世小橋から鬼子母神方面を眺めると、「鬼子母神前から学習院下に向かう都電 8900 形」（写真②）のような都電の写真を撮るカメラに収めることができます。「鬼子母神前」から「学習院下」までの線路は大きなカーブが少なく、千登世小橋は、往来する都電を正面から撮影できる絶好のスポットです。

千登世小橋は、東京メトロ副都心線の雑司が谷駅から歩いて直ぐの場所にあります。車・歩行者共に交通量の多い場所でもありますので、実際に千登世小橋をご覧になれる際には十分ご注意ください。

（郷土 水吉）

千登世小橋は、千登世橋が架かる以前の昭和三（一九二八）年に、王子電気軌道（現都電荒川線）が「鬼子母神前」から「面影橋」まで路線が延長された際に架設されたと思われる。「高田町写真帖」に収録されている「千登世橋からの王電」（写真①）は、現在の千登世小橋の位置から「学習院下」方面を撮影したものです。写真の右側には、建設中の明治通りが写っています。

目白通りと明治通りが交差する地点に、千登世橋は架かっています。千登世橋は、豊島区が誕生した昭和七（一九三二）年に建設が始まり、翌年に竣工しました。八〇年以上もその場所で地域の交通を支えています。明治通りに架かる千登世橋は大きくて有名ですが、都電線路上に千登世小橋という小さな橋が架かっているのをご存知でしょうか？千登世小橋は、都電荒川線の停留所である「鬼子母神前」から「学習院下」の中間に位置し、欄干から下を覗くと、都電が往来する様子を眺めることができます。



2019年度企画展

暗がりから池袋を覗く〜ミステリ作家が見た風景のぞ

2019年8月3日(土)〜9月14日(土) 開催予定!

会場・豊島区立郷土資料館 企画展示室

今回、豊島区ミュージアム開設プレイベント第一弾となる企画展では、豊島区ゆかりのミステリ作家に焦点をあてる文学の展示を行います。

池袋・雑司が谷界隈に、まだ森や林が覆う薄暗い闇が残っていた一九三四(昭和九)年、江戸川乱歩(一九〇四―一九六五)が池袋に移り住みました。乱歩が移り住む以前、そのあたりには丸池を発端とする弦巻川が流れ、田畑が広がっていました。湿った空気とさびしさの漂う池袋が乱歩を迎えました。その後亡くなるまで、およそ三〇年間



江戸川乱歩肖像写真

提供：立教大学江戸川乱歩記念
大衆文化研究センター

住み続けた池袋には、乱歩作品に通じる闇があったのでしょうか。

高度経済成長を経て、昭和から平成に変わる頃、池袋にはサンシャインシティが建ち、乱歩が歩んだ闇のそばで、まちは大都市へと発展していきます。

江戸川乱歩をはじめ、池袋・雑司が谷界隈に集ったミステリ作家のエッセイや作品には、池袋のまちはどのように語られているのでしょうか。

今回の企画展では、江戸川乱歩をはじめ、大下宇陀児、泡坂妻夫、飛鳥高などの自筆原稿やスクラップブック、愛用品などを展示しながら、乱歩以前の風景と乱歩以後の風景が混沌と共存するまちな変遷と、作家たちの言葉に焦点をあて、戦前から戦後にかけての池袋・雑司が谷の風景を探っていきます。

今年の夏は、ミステリ作家の言葉に浸りながら、池袋のまちなを覗いてみませんか？

(文学・マンガ 西方)

～関連事業も開催いたします～

※申込方法等詳細は、広報としま7月1日号、チラシ、ホームページ等に掲載予定です。

◆企画展記念講演会 講師：京極夏彦氏(小説家) ※要申込

2019年8月10日(土) 14:00～15:30

場所：としま産業振興プラザ(豊島区西池袋2-37-4) 6階多目的ホール

◆見学会(企画展・旧江戸川乱歩邸) ※申込不要

2019年8月23日(金)、2019年9月11日(水) 各2回

1回目) 乱歩邸：11:00～ 企画展：12:30～

2回目) 乱歩邸：14:00～ 企画展：15:30～

問合せ先：文化デザイン課ミュージアム開設準備学芸グループ(03-3980-3177)



桃源社版『江戸川乱歩全集10』「あとがき」草稿(豊島区蔵)



『江戸川乱歩貼雑年譜完全復刻版』全2巻、東京創元社、2001年(豊島区蔵)

作品を見る読む

16

朝木良之助《東長崎町にて》

伸びた樹木、竹を組んで作られている背の高いはしご、遠くに見える煙突、手前に茂るトウモロコシ。左側には道が奥に延び、中景の左右には畑が広がっています。のどかなこの風景は、どこの、いつのものなのでしょう。随分前の景色だと思われる方が多いのではないのでしょうか。しかし明治・大正期ではありません。さらに戦前でもないのです。本作は裏面に書き込みがあるため、一九五四年の制作であることがわかります。昭和二九年に、これほどの広い畑が広がっていたのだろうか、と驚かされます。

本作(図1)は、技法としては紙本彩色と表現されるもので、楮紙に描かれた日本画です。これまで区の美術分野では、保存や展示環境のことを考え、温湿度によりデリケートな配慮を必要とする日本画は所蔵してきませんでした。しかし縁あって、朝木良之助(一九〇五—一九七四)の作品をご寄贈いただくことになったのは、豊島区のある地域の貴重な姿を伝えていたからです。

区内の町名は変遷を繰り返していますが、本作のタイトルになっている「東長

崎町」という地名は実在しません。「長崎東町」、はありました。西武池袋線に東長崎という駅があることから、朝木は



図1 朝木良之助 東長崎町にて 1954年 紙本彩色
60.5×72.5 cm 豊島区蔵



図2 鶴田吾郎 長崎村 1928年 墨、紙
24.1×28.7cm 個人蔵

その名前にひきずられたのかもしれない。いずれにしても、描かれているのは現在の長崎・千早地域であろうと思われる。

一方、図2は、いつ、どこの景色と見えるでしょうか。こちらは紙に墨で描かれた作品で、これも書き込みがあるので、一九二八(昭和三)年に描かれた「長崎村」であることがわかります。手前の高めの樹木と右奥に広がる畑は、一見すると朝木作品と同じ時期の制作かとも思われます。天高く揚がった風も、目を引きます。ほぼ変わっていないようにも感じられるもの、図1と2では、煙突がなによりも変わった点と言えるでしょうか。

一九三〇年代後半から一九四〇年代にかけて、この長崎・千早地域には多くのアトリエ付貸家が建てられていきます。《長崎村》のように何もなかったこの地では、関東大震災後に家が建てられてゆき、画家たちが集い、暮らし、熱気のあるやり取りが繰り返されました。今ではそれらは「池袋モンパルナス」として知られているとおりです。今は暗渠と化した谷端川沿いに家が建ちはじめ、アトリエ付貸家群がいくつかたまり、けれども、長崎・千早地域は戦災ですべてが灰燼に帰したわけでもなく、一九五四年

の段階でも、その周辺にはまだのどかなこのような景色が広がっていたのです。家々の周辺は、一面畑だった、ということとす。

《東長崎町にて》を描いた朝木は、池袋モンパルナスという言葉を最初に使った小熊秀雄と同じく画家であり、詩人、俳人でもあり、美術雑誌などのカメラマンもしていたそうです。一九四六(昭和二一)年に、日本美術会が「民主的美術文化を創造し普及する」ことを掲げて結成されると、朝木は参加します。《長崎村》を描いたのは鶴田吾郎(一八九〇—一九六九)で、同じ一九四六年に描かれた鶴田の《池袋への道》を目にしたことがある方も多いでしょう。二人とも現在の要町に暮らしていましたが、知り合いなかったのかどうかは定かではありません。身寄りのなかつた朝木は、自らも参禅していた洞雲寺に無縁仏として葬られ、鶴田は、親友・川端龍子が亡くなった後、洞雲寺に龍の襖絵を描いています。

アトリエ付貸家群が建ち並ぶ姿、あるいは建ち並んでいた姿を、これらの作品から想像するのは難しいかもしれません。けれど、作家たちの活動はこうした土地や空間の広がりの中で繰り返されてきたことなのです。

(美術 小林)

2019年度豊島区立郷土資料館・ミュージアム開設準備グループ事業予定 (2019年4月～2020年3月)

企画展	豊島区ミュージアム開設イベント第11弾 「暗がりから池袋を覗く～ミステリ作家が見た風景～」	8月3日(土)～9月14日(土)
展示 見どころ解説	常設展示等の見どころを、学芸員がわかりやすく解説します。	毎月第4土曜日(休館日の場合休止) 14時～40分程度 事前申し込み不要 直接展示室へ
庁舎まるごと ミュージアム (3階展示)	美術分野 郷土資料分野 文学・マンガ分野 ※常設展示は行っています。	東アジア文化都市2019関連事業の 展示中は休止します
講座・講演・ 見学会など	第14回池袋モンパルナス回遊美術館 ①立教大学コラボ企画 特別講演会 「池袋、パリのモンパルナスと東アジアの美術交流」 講師：山梨絵美子氏(独立行政法人東京文化財研究所副所長) 馬淵明子氏(国立西洋美術館館長)	①5月16日(木) 18時30分～20時
	②さんぽみちツアー 講義とまち歩き 「田端文士村を訪ねる」～区ざかいに行くシリーズ4 講師：本田晴彦氏(アトリエ村資料室代表)	②5月26日(日) 13時～16時
	企画展記念講演会 講師：京極夏彦氏(小説家)	8月10日(土) 14時～15時30分
	企画展見学会 各回30分程度 ①旧江戸川乱歩邸(立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センター) ②企画展示室(郷土資料館)	8月23日(金) 9月11日(水) ①11時 14時 ②12時30分 15時30分
	豊島区ミュージアム開設イベント 「豊島ミュージアム講座」	今年度は休止します
刊行物	郷土資料館・ミュージアム開設準備だより 「かたりべ」132号～135号	年4回、2,200部、無料頒布 6月・8月・12月・3月刊行予定
	研究紀要「生活と文化」第29号(付・2018年度年報)	3月刊行予定 500部 有償頒布
	企画展図録	8月刊行予定 1,500部 有償頒布
臨時休館・年末 年始の休館	①収蔵資料展の展示替え ②企画展の展示替え ③展示替え ④年末年始	①5月13日(月)～5月23日(木) ②7月21日(日)～8月2日(金) ③9月15日(日)～9月30日(月) ④12月28日(土)～1月4日(土)

※都合により事業内容や日程を変更する場合があります。
※詳細は「広報としま」、郷土資料館およびミュージアム開設準備グループのホームページで随時お知らせいたします。

研究紀要『生活と文化』第28号 付・2017年度年報 価格900円 2019年3月発行

※郷土資料館事務所(としま産業振興プラザ7階)・行政情報コーナー(区役所4階)にて頒布

「戦前から戦後までの鉄兜・鉄帽について」	山本昂伯
「学童集団疎開(八)再疎開の続行」	青木哲夫
「豊島区の水販売業備忘録 一水冷蔵庫と水屋さんの記憶一」	三村宜敬
「鈴木家旧蔵「明治四十年間小品合作屏風」調査報告(1)」	井坂 綾
「郷土資料館展示リニューアルについて」	横山恵美



かたりべ
No.132

2019年6月7日

豊島区立郷土資料館

東京都豊島区西池袋2-37-4
としま産業振興プラザ7階

電話 03-3980-2351

URL

<http://www.city.toshima.lg.jp/bunka/bunka/shiryokan/index.html>



東アジア文化都市2019豊島
Culture City of East Asia 2019 Toshima
はらばら文化がこぼれはじめる

編集後記

「かたりべ」一三二号をお届けいたします。日が増すにつれて、夏への移り変わりが感じる季節となりました。皆様はいかがお過ごしでしょうか？

本年度は、収蔵資料移転及び準備作業のため、頁数が前年度の六頁から四頁へ変更となりますが、例年通り、年四回の発刊を予定しております。ご愛読のほどよろしくお願ひ申し上げます。

一三二号の記事でもお伝えしましたが、今年度の企画展は、文学・マンガ分野が担当し、八月三日から九月四日にかけて、企画展「暗がりから池袋を覗く～ミステリ作家が見た風景～」を開催いたします。江戸川乱歩をはじめとする豊島区ゆかりのミステリ作家の原稿や愛用品等を展示いたします。また、八月一日には、企画展記念講演会も行います。ご期待ください！

(郷土 水吉)

資料寄贈受け入れの
一時休止のお知らせ

収蔵資料移転及び準備作業のため
資料寄贈の受け入れを二〇二〇年
秋頃まで、一時休止いたします。